



発行日 令和4年4月発行 第106号
 発行元 社会医療法人 昴和会 内山病院 編集委員会
 連絡先 鹿児島県阿久根市高松町2番地
 TEL:0996-73-1551
 FAX:0996-73-4636
 Homepage <http://www.uchimt.com/>
 E-mail uchimt@uchimt.com



巻 頭 言

巻頭言・・・P1 診療一口メモ・・・P2
 部署紹介・・・P2 委員会活動・・・P2～P3
 自宅でできる嚥下リハビリ・・・P3～P6
 編集後記・・・P7

2 病棟師長 春野 亜紀



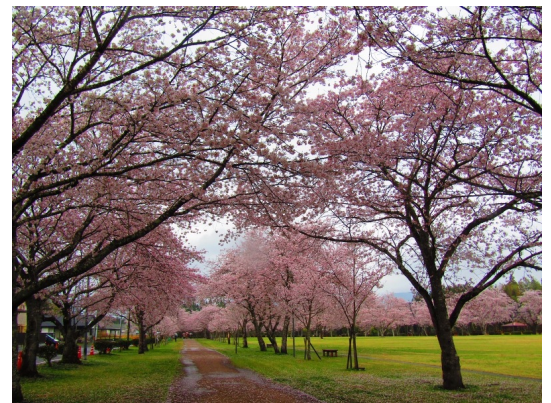
新型コロナウイルス感染症の蔓延が長期化や災害、紛争と世界が混沌とした状況が続いている中、医療職の役割拡大や働き方改革など仕組みが変化していき医療を取り巻く環境や社会保障制度も進んでいきます。2022年度診療報酬改定があり療養病棟の主な改定は2点

「療養病棟入院基本料」関連の主な見直し

- ・ 中心静脈栄養を実施する場合は嚥下機能評価等を要件化
- ・ 入院基本料の「褥瘡対策の診療計画における薬学的、栄養管理に関する事項を追加記載」他職種との連携を求められる事となった

今回療養病床入院基本料についての施設基準や点数の見直しはなかったが今後変化していくことは間違いないと考えられる。地域がら人口が急速に減っており年々外来を受診する患者も減少傾向です。その為か入院患者も減少傾向になっている為病床利用率も低下しており今後の体制も検討していく時期にさしかかっているのではないのでしょうか。また医療区分の算定出来ない患者は増えており現在施設待機状態の患者は増加傾向で尚且つ認知症を伴う状況であるため自宅での介護困難となり医療区分2・3の入院患者が80%台になっています。

人口が減るという事は働き手も減少となるため働き方改革が必要になってきます。厚生労働省の定義によれば「働き方改革とは働く人々が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できるようにするための改革」とされています。毎年人材の定着という面が課題であり望んだ環境や働き方が出来れば業務に対する姿勢はもちろん高い生産性が期待出来ます。ライフスタイルが充実した状況で成果がでていけばもっと働きたいという気持ちが強くなり人材の定着につながります。人材の定着率が上がれば離職率も低下するので業務の負担や人材コストも減らすことができるはず。その為には環境を整えスタッフが協力しあう風土を作りあげる必要があります。また36協定に従い超過勤務の削減や働き手の健康・副趾の確保など同時に行う必要があります



今後スタッフが働きやすい環境を試行錯誤しながらとは思いますが取り組んでいき人材が少ないながらも医療の質を維持出来る様に願っています。

診療一口メモ

脳神経内科 伊藤 香世子

脳神経内科の診察を希望して来られる初診の患者さんの訴えの大半を占めるのが、手足のふるえ（医療用語としては振戦と言います）です。

多くは周りの方や他科の医師から、パーキンソン病かもしれないから専門の医師に診てもらったほうがいいと勧められて受診されるようです。

そこで今回は、振戦についてお話ししたいと思います。

振戦というのは、痙攣とは異なり、手、頭、声帯、体幹、下肢など体の一部が、自分の意思に無関係に（不随意に）生じる一定のリズムで繰り返される動きのことを指します。大きく分けて4つの主な原因があります。

①生理的な振戦：寒さや緊張など周囲の環境や心理的な要因によって起こるふるえで誰にでも起こりうる一時的な症状です。治療の必要はありません。

②本態性振戦：原因が特定できないふるえで、高齢者に多くみられるため老人性振戦とも言われていたふるえです。緊張やストレスにより交感神経が過度に興奮することが原因と考えられているようです。日常生活に支障をきたすほどの振戦の場合には、脳深部刺激療法という手術も一つの選択になります。

③病気の症状としての振戦：パーキンソン病による安静時振戦、甲状腺機能亢進症による振戦、その他糖尿病、小脳疾患などによる特殊な振戦もあります。

それぞれ疾患によって特徴的な振戦ですので、専門医の診察をきちんと受けるようにしてください。

④薬剤性の振戦：治療薬の副作用で生じる振戦です。

このように振戦と一口に言っても原因も振戦の種類もさまざまであり、治療可能なものから困難なものまでありますので、いずれにしても気になったら脳神経内科に相談してください。

部署紹介

栄養課

管理栄養士 松田 理香

栄養課は管理栄養士3名、栄養士1名、調理師4名、調理員5名、計13名の部署です。

患者さんの栄養管理、食事提供を行っています。疾患別の食事を提供し、形態も個人対応行っています。好き嫌いにも対応しているため作るほうの厨房職員は大変ですが、食事は入院生活の楽しみのひとつなので、食べやすくおいしいと思っていただけるよう工夫しています。

委員会活動

感染対策委員会

看護部長 小船井千裕

COVID-19 感染も足掛け3年となりました。長期にわたり継続されている病院、各施設での面会制限等にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

デルタ株から感染力の強いオミクロン株に移行し、陽性者の減少もままならず、増加へと転じてきています。

3回目ワクチン接種とともに、「マスク・手洗い・3密回避」の基本的な感染防止策は引き続き続けねばな

りません。

2022年度「with コロナ」から「after コロナ」に移行して行かねばならない時期に入るとでしょう。COVID-19感染が消えて無くなるわけではなく、その感染状況には注意しなければなりません、一方でそちらに引っ張られ過ぎることなく、より一歩通常の感染症に近づくという認識でしょうか。これまでの経験と最新の知識に基づいて、感染拡大防止と社会活動の維持を両立させるべく、感染対策委員会として、的確に対応していきたいと思えます。

以前当院の「感染対策委員会の活動」の概要を説明いたしましたので、今回は、COVID-19 感染症の基本的予防策の中から「効果的な環境整備のポイント」について紹介したいと思います。

【新型コロナウイルス感染症 清掃のポイント】

1) 手が良く触れる場所（コンタクトポイント）を中心に清掃を行う

手が良く触れる場所は汚染することが多いので、優先的にコンタクトポイントの環境表面を清掃しましょう。

- ・ 手すり、ドアノブ、スイッチ類、リモコン、オーバーテーブル、床頭台、ベッド柵
パソコンキーボード・マウス等

2) 常に一方通行で清掃を行う

清掃の基本は「上から下へ」「奥から手前へ」「綺麗なところから汚れたところへ」
清掃するようにしましょう。

「S」の字を書くように、一方向に清拭することで汚染を広げることなく清掃することができます。
清掃クロスが汚染したり、途中で乾燥してしまった場合は新しいものに交換しましょう。

3) 適切な消毒薬を選択し、消毒薬の管理を適切に行う

環境表面の清拭清掃では、アルコール（70-90%）もしくは次亜塩素酸ナトリウム（0.05%）の使用を推奨します。消毒薬を含んだ清掃用クロスもありますので、簡便に使用することができます。
また、次亜塩素酸ナトリウムを使用する場合は取扱いに十分に注意しましょう。

次亜塩素酸ナトリウムの取り扱い

- ・ 目や肌への影響があるため、手袋を着用して取り扱いを行う。
- ・ 金属が腐食することがあるため、次亜塩素酸ナトリウム清拭の後に水拭きを行う。
- ・ 薬液の変性を避けるため遮光された容器を使用 24 時間を目安に交換する。

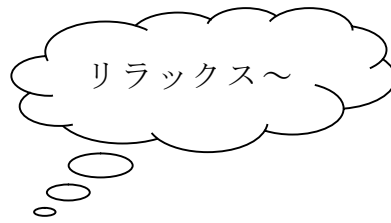
社会医療法人昴和会 自宅でできる嚥下リハビリ

嚥下体操とは嚥下に関わる首や肩、口腔器官の運動を行ない、嚥下を行いやすくする為の体操です。食事前の準備として行うことで唾液の出がよくなり、飲み込みやすく食べやすくなります。さらに、食べる際には姿勢も大事な要素の一つです。そこで今回は、嚥下体操の方法や食事の際の姿勢のポイントなどを紹介します。

*本人の状態によっては、手や首を動かすことが良くない影響を及ぼす場合もありますので、無理のない方法を選択してください。

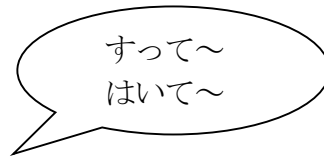
嚥下体操

①姿勢



リラックスして、
腰掛けた姿勢をとります。

②深呼吸



お腹に手を当てて、
ゆっくり深呼吸します。

③首の体操



ゆっくり後を振り返る。
左右とも行なう。



首を左右にゆっくりと
1回ずつ回す。



耳が肩につくように
ゆっくりと首を左右に倒す。

④肩の体操



両手を頭上に挙げ、
左右にゆっくりとおろす。



肩をゆっくりと上げてからス
トンと落とす。 4



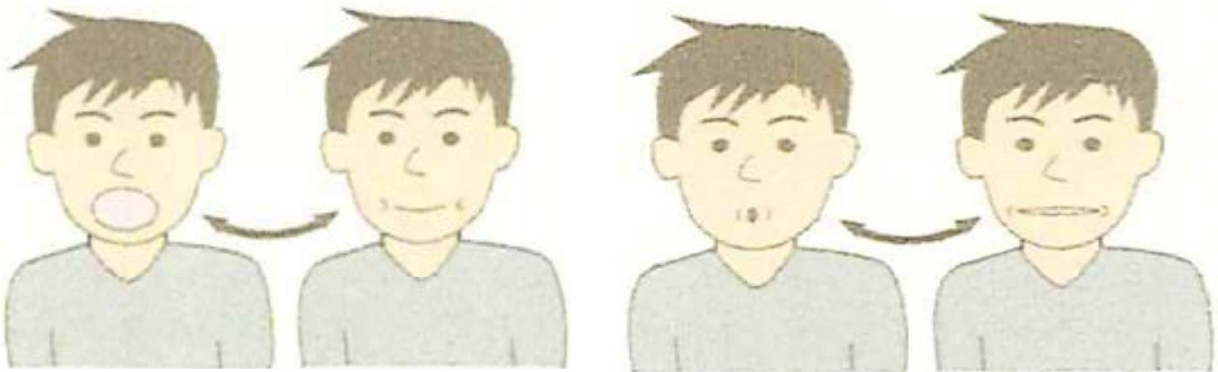
肩を前から後ろ、後ろから前
へ2回ずつ回す。

⑤頬の体操



頬を膨らませたり
凹ませたりする。

⑥口の体操



口を大きく開けたり、口を閉じたりして歯
をしっかり噛み合わせたりを繰り返す。

口をすぼめたり、横に引いたりする。

⑦舌の体操



舌をべーっと出す。
舌を喉の奥の方へと引く。

口の両端をなめる。

鼻の下、顎の先をさわる
ように上下に動かす。

⑧発声練習



⑨咳払い

お腹を押さえてエヘンと咳払いする。



姿勢のポイント

エヘン

椅子の場合

背もたれの高さは、肩
のレベル程度であると疲れにくい



体が前後に傾く場合は、
椅子と体の間にクッションを入
れる

膝は90°に曲げる

ベッドの場合



膝下や足底に枕やクッションを入れる

※体が左右に傾く場合は傾く側の背部にクッションや丸めたバスタオルなどを当てる

他にも…

- ・腰の位置とベッドの折れめを合わせる
- ・腰の安定をよくし、腹部をリラックスさせるように、膝を軽く立てる

無理の無い範囲で行い、誤嚥予防に努めましょう！

個人情報保護法により、早蕨掲載の写真及び名前については本人の同意を得ています。

基本理念

- 1 質の高い思いやりのある医療福祉の実現
- 2 地域に必要なとされる医療福祉施設に育成・発展させる

基本方針

- 1 患者の立場に立った高齢者医療介護福祉施設の充実に積極的に寄与する
- 2 プライマリーケアを実践する中で、今までの実績の更なる積み重ねと時代の求めに応じた拡大を目指す
- 3 人材の育成
- 4 経営の安定化・事業の展開
- 5 品質管理（危機管理・安全管理・利用者の満足度向上）

患者の権利

- 1 患者様は、「平等で良質な医療を受ける権利」があります。
- 2 患者様は、「選択と自己決定の権利」があります。
- 3 患者様は、「個人の秘密保持・情報に関する権利」があります。
- 4 患者様は、「尊厳性の権利」があります。
- 5 患者様は、「安全が確保される権利」があります。

患者様の義務

- 1 患者様は、ご自身の健康に関する情報を提供する義務があります。
- 2 患者様は、病院のルールを守り、医療に参加する義務があります。
- 3 患者様は、他の患者様の医療を妨害しない義務があります。
- 4 患者様は、医療費を支払う義務があります。

編集後記

昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大が終息しない中、東京オリンピック・パラリンピック、そして冬季の北京オリンピックが共に開催されました。ほとんどの会場が無観客となる一方で、世界中から集まったアスリート、地元開催となった日本選手の方々には感動し希望を与えてくれ、スポーツの持つ力を再確認することができました。しかし、まだまだ新型コロナウイルスによる影響が懸念されています。引き続き感染拡大防止に努め1日も早い収束を願うばかりです。

今回、早蕨原稿にご協力くださりました皆様ありがとうございました。